

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記 3

国立市立国立第七小学校

平成27年6月23日 NO.35 (235)



クロコノマチョウ



ナガサキアゲハ

オー君 「モンタ博士！今日は、地球の温暖化のお話ですね。」

花ちゃん 「温暖化？なんだか難しそうなお話ですね。」

モンタ博士 「難しくはないよ。まあ、もっと難しくいえば、『人為的気候変動』ともいうんだけどね、つまり、地球が暖かくなっているということさ。まあ、上のチョウの写真を見てごらん。何か気がついたことがあるかな。」

オー君 「ぼくもチョウを採ったりするけど、あまり見たことのないチョウですね。」

モンタ博士 「左をクノコノマチョウ、右をナガサキアゲハというんだよ。」

花ちゃん 「あまり聞かない名前ですね。」

モンタ博士 「数年前、この2つのチョウを採った時には、めちゃくちゃ興奮したね。」

花ちゃん 「それは、どうしてですか。」

モンタ博士 「このクノコノマチョウやナガサキアゲハは、国立市や八王子市など、東京にはいないはずのチョウなんだよ。」

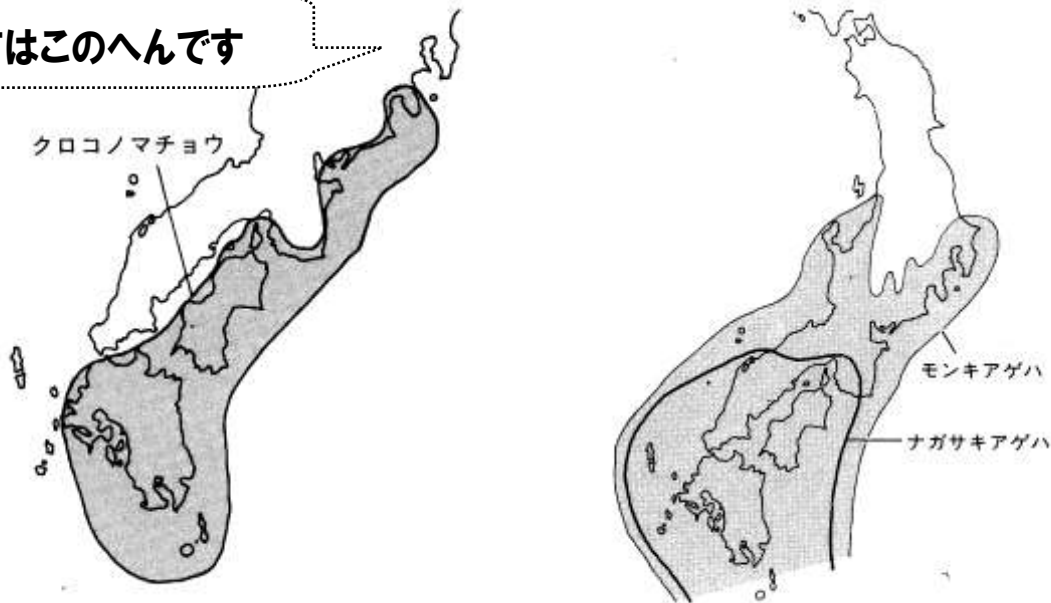
花ちゃん 「それって、どういうことですか。」

モンタ博士 「これらのチョウは、もう少し南の暖かい場所にいるチョウなんだよ。」

オー君 「暖かい場所にいるチョウが、この近くで見つかるといけないの。」

モンタ博士 「あのね、チョウの生息分布図というものがあるのさ。」

国立市はこのへんです



オー君 「^{うえ}上の^{ちず}地図^{みたい}なのが、その^{せいそくぶんぶす}生息分布図^{という}ものですか。」

モンタ博士 「^{ひだり}左^のクロコノマチョウ^を見て^{ごらん}。国立市^{より}も^{もっと}南^にいるはず^{なんだよ}。それから、ナガサキアゲハ^も同じ^{だよ}。これは、まちが^いなく^{地球温暖化}が進^{んで}いる^{ということ}なんだ。」

花ちゃん 「^{ほんとう}本当^は南^の暖^{かい}場所^にいるはず^のチョウ^が、北^{まで}来^ている^のですね。」

オー君 「^{それ}だけ、^{地球}が^暖か^くな^って^いる^のですね。」

モンタ博士 「^{その}と^{おり}さ。^{地球温暖化}という^{のは}ね、^{二酸化炭素}などの^{温室効果}のある^{ガス}が^たま^って^しま^って、^{それが}原因^{とな}って^{地球}の^気候^が変^化して、^急に^暖か^くな^ること^{なんだよ}。北^極海^の氷^が少^しず^つ溶^けて、^{ホッキョクグ}マ^もあ^と数^十年^でい^なく^なる^のでは^とい^われ^てい^るんだ^よ。」

花ちゃん 「^{へえ}ー、^{そう}なん^{です}か。^{地球温暖化}については、^{きちん}と^お勉^強し^ます。」

ツマグロヒョウモンと地球温暖化について

山と溪谷社発刊の「野外ハンドブック2蝶」（初版1977年7月20日・8版1989年9月10日）がモンタ博士ライブラリーにあります。その中の記述で、「このチョウは、関東以北ではめったに見られることがなく、稀に迷蝶として採集されるだけなので、子供の頃は図鑑をながめながら何とか採ってみたいものだ、ため息をついていた。後になって初めて屋久島に行った時に、上陸してまず見たのがこの蝶で、海岸の草叢を飛んでいた。その時は、あわてて追って行ったが、屋久島ならどこにでもいる蝶で・・・後省略」とありました。また、特に目を引いたのは、分布は「近畿以西」という一語でした。